Market Letter 情報提供資料

日銀金融政策決定会合（2026年9月）

市場予想通り、政策金利を1.25%へ引き上げ

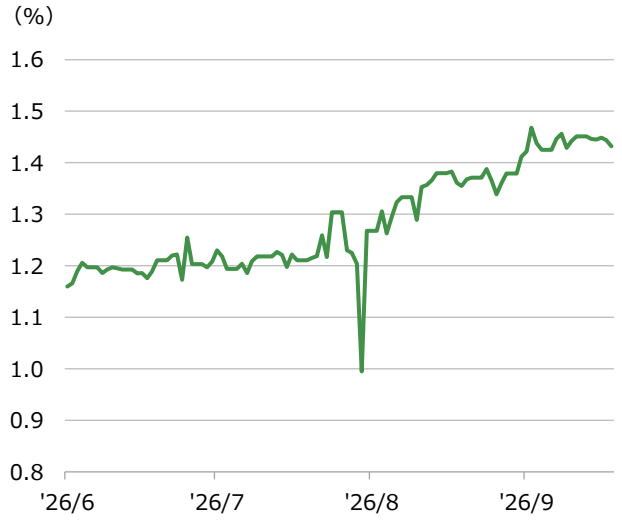
2026年9月18日

利上げペースを加速　植田総裁「政策の局面が変化」

日本銀行（以下、日銀）は9月17～18日に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り、政策金利の無担保コールレート（オーバーナイト物）を0.25%ポイント引き上げ、1.25%にすることを決定しました。今回の利上げは前回6月から約3カ月ぶりで、従来の半年に１回程度から利上げペースが加速しました。その背景には、インフレ上振れリスクへの対応があります。企業物価は、原油高やAI関連需要を背景に、前年同月比で3カ月連続の7%超となりました。企業の価格設定行動が積極化し、中長期的なインフレ期待も上昇するなか、植田総裁は「政策の局面が変化した」との認識を示しました。

先行きの金融政策運営について、植田総裁は、今回の利上げ後も金融環境は緩和した状態にあるとの認識を示し、利上げ継続の方針を維持しました。日銀のインフレ上振れリスクへの対応姿勢を受け、OIS市場では年内の追加利上げが相当程度織り込まれています。おおむね四半期に一度のペースを前提とすれば、次回利上げは12月が一つの目安ですが、実際のタイミングは原油価格や為替の動向に左右されるとみています。その後は、政策金利が中立金利の推計レンジ（日銀推計、1.1～2.5%）内で上昇するにつれ、経済・物価への影響を慎重に見極める必要性も高まります。加えて、浅田・佐藤両審議委員の反対票からは、高市政権の緩和的な金融環境への志向がうかがえ、今後の利上げに政治的な圧力がかかり得ます。こうした点を踏まえると、利上げの最終到達点に近づくにつれて、利上げペースが鈍化することも想定されます。

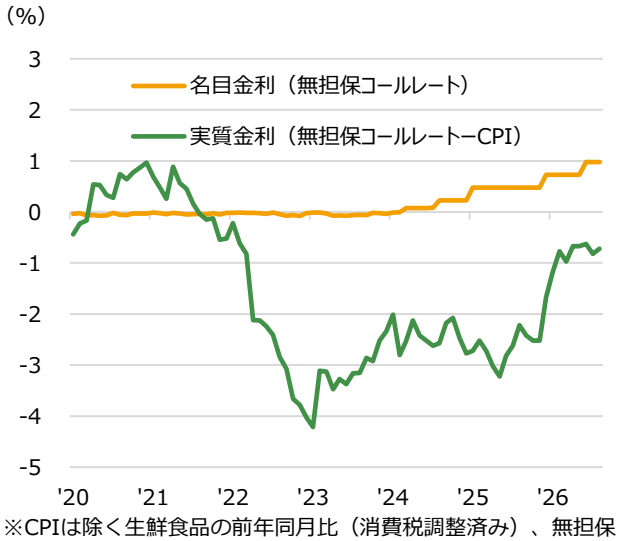
市場が織り込む年末時点の政策金利の水準



※直近値は2026年9月18日15時30分

（出所）ブルームバーグ

実質金利（短期）



※CPIは除く生鮮食品の前年同月比（消費税調整済み）、無担保コールレートは月末値、直近値は2026年8月

（出所）ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

■当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。

■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。